

## 実技や実験を撮影し、深い学びへ

生徒たちはタブレット端末を使うことで、これまで難しかった思考やイメージを可視化できるようになりました。

例えば「体育」の授業では、自分の動きを動画で撮影し、後からどんな動きをしているか客観的に確認しています。「理科」や「技術」の授業でも、撮影した化学変化の様子をスロー再生して詳しく確認したり、実験の様子を何度も見直して調べたりしています。また、欠席したクラスメートに実験の動画を送ることもできます。



【理科】化学反応をタブレットで再現



【技術】実験の様子を動画で再確認



【体育】体の動きをクラスメートが撮影

## デジタルでプレゼンテーション

「社会」の授業では、小都市の人口減少や公園整備などの課題とその要因、解決策をグループを組んで調べ、プレゼンテーションをしています。タブレット端末の配布以前は、調べたことを模造紙に書き写すため、途中での修正ができなかったり、作業が1人に偏ったりするなどの課題がありました。

タブレット配布後は、教科書だけでなくインターネットを使って、より幅広く調べることが可能になりました。また、調べた内容をまとめたデータを共有することで、他のグループの資料を画面上で参照したり、プレゼンテーションをグループ全員が同時に編集したりすることができます。さらに、発表を聞いたクラスメートの意見を相互共有することで、プレゼンテーションをブラッシュアップしています。



【社会】タブレットを使い解決策をプレゼンテーション

今回で紹介した2校以外の小・中学校でも、オンラインを利用したネイティブとの英会話や社会科見学、小・中学校間の交流、ロボットを動かすためのプログラミングなどの学習を行っています。それと同時に、正しく・安全にタブレット端末を利活用するための情報モラル教育にも力を入れています。

市内の小・中学校では、タブレット端末をノートや鉛筆と並ぶ文房具として活用しています。市教育委員会は、これからの時代に求められる新しい教育にICTを取り入れ、地域の課題を解決する教育を通して子どもたちの「未来に向かい 未来を拓く力」の育成をめざしています。

ICT

# デジタルの力でリアルな学びを

問 学校教育課学校教育係 ☎72-2111

令和3年、小郡市立の小・中学校で児童・生徒に1人1台のタブレット端末(ノートパソコン)が貸し出されました。今では、授業で使うデータを児童・生徒たちがお互いにタブレット上で共有して同時に編集したり、黒板に書かれた授業の内容を撮影して欠席したクラスメートと共有したりするなど、時間と空間の壁を越えた活用が進められています。今回、市内の小・中学校の中でも、福岡県教育委員会の「情報活用能力向上事業」の指定を受け、より力を入れてICT教育に取り組んでいる2校の授業を紹介します。

## 味坂小学校

Ajisaka Elementary School



### ICTを活用した課題解決

主に「生活」と「総合的な学習」の授業で、ICTを活用した課題解決的な学習を進めています。

例えば、地域住民と一緒に地域の課題を解決することを目的とした授業では、ポピーの里あじさか館で毎週開催されている「あじっこ市場」を小郡市の名物にしようと、各グループでさまざまなアイデアをネットワーク上で交換し、意見を出し合いました。



**1** 地元の「あじっこ市場」の野菜を使ったお菓子のレシピを、ウェブ会議を活用して市場の関係者に提案しました。



**2** 「あじっこ市場」をアピールするために、タブレットを使ってポスターや紹介動画を試作し、地元の人たちの思いや願いを聞きながらポスターを改善しました。



### ICTの活用は手段のひとつ

ICTを「授業の目的を達成するためのツール」として位置づけ、身近な生活や地域の課題を解決するための主体的な学びをつくるため、さまざまな授業場面で活用しています。

**3** お客さんに商品の説明をしている様子。地域の人たちと一緒に「あじっこ市場」を盛り上げました。